

「神功皇后・鮎釣り伝説と万葉歌」

（唐津市玉島の里）

・日本書紀に登場する神話伝説上の人物として知られる神功皇后伝説のゆかりの地は九州には多く存在する。

・福岡県と佐賀県の県境西に位置する佐賀県唐津（東松浦）地方は、朝鮮半島と近いことから、古代から大陸との交流が盛んであったため、日本と大陸に関係のある伝説が数多く伝えられている。その一つに唐津市中心地から東の松浦地方の玉島の里（現・唐津市浜玉町玉島）を流れる松浦川

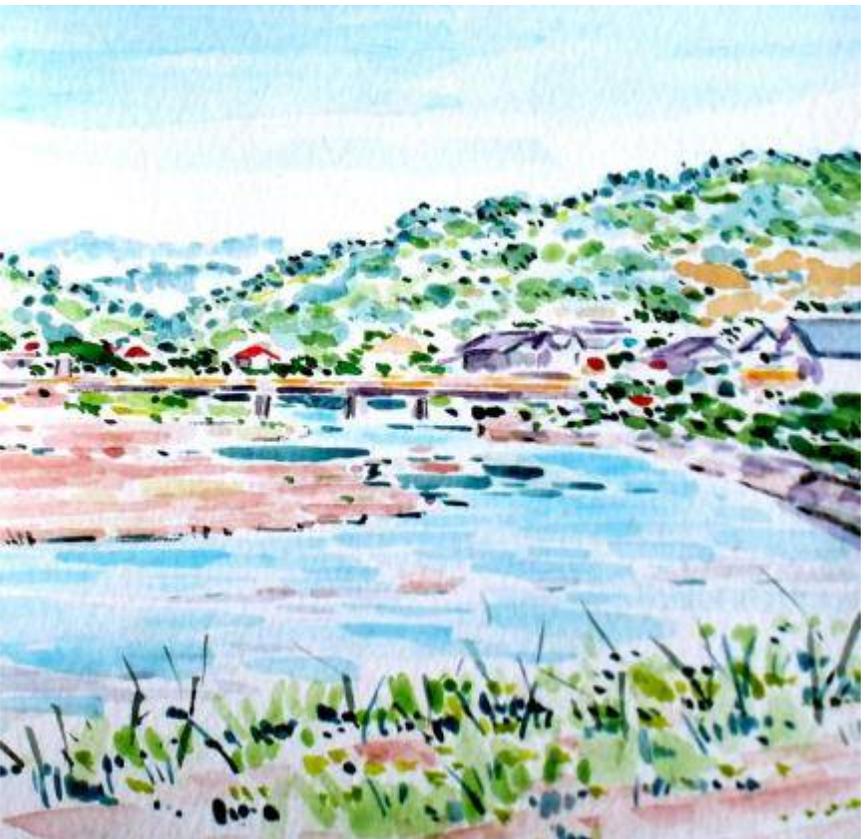
（現・玉島川）で新羅征討の際に鮎を釣って事の成否を占ったとする古来最も有名な神功皇后伝説が伝わる。万葉集にはこの神功皇后の鮎釣り伝説を詠った歌がある。

・この伝説が伝わる玉島の里（現・唐津市浜玉町玉島）は福岡市内中心部から約40kmの位置にありJR筑肥線（福岡市（唐津市）「浜崎駅（唐津市）」からバスで南下10分。かつての松浦川（現・玉島川）に沿ってさかのぼるとやがて「玉島神社」に至る。この神社前を過ぎてすぐに道が二手に分れる左側の玉島川の左岸に位置する小さい町である。この「玉島の里」からの玉島川上流は「七山溪谷（唐津市）」に至る美しい自然に恵まれた風景を見せてくれる。

福田良輔著「九州の万葉」によると大宰府から旅人をはじめとする官人達

が、この玉島の里に至る松浦路は玉島川上流「七山溪谷」を通る七山路でなかつたかと思うと述べている。

（写生地1）玉島川の下流左岸に鎮座する玉島神社前から玉島の里（現・唐津市浜玉町玉島）を流れる玉島川と松浦路（七山溪谷）方向の風景を描く。
（杏花）



●万葉集に万葉の歌人で当時、筑前守だった山上憶良が、何らかの理由でこの地へ行けなかつたことを嘆きこの地を訪れた人をうらやみ詠んだ歌だろうといわれている次の二首がある。

作品は「天平二（730）年七月十一日謹上」と記されている。

まつらぢ

「1松浦路」

ももか

百日しも 行かぬ松浦路 今日行き

て 明日は来なむを 何かさやれる。

卷五―870 作者 山上憶良

(解説) 百日などはかからない松浦への道は、今日行って明日は帰って来ることが出来るだろうに、どういう差支えが起って行かれないのでしよう。

・「日本書紀」には皇后、仲哀九(200)年夏四月三日に北方の火前国

ひのみちのくに

(肥前国)の松浦県まつうらのあがた(肥前国松浦郡)に至られて、玉嶋里たましまのさと(現・佐賀

県唐津市浜崎玉島町付近)の小河のほとりでお食事を召し上がった。

そのとき、皇后は、針をまげて釣針をお作りになり、飯粒を餌にされ、裳の糸をぬき取って釣糸とされ、河の中の石に登られ、釣針を投げて祈いうけ(神に祈って成否や吉凶を占う事。)をされて、「私は、西方の財たからの国(新羅国)を求めたいと望んでいる。もし事が成功するならば、河の魚が釣針のみこむように」と仰せられた。

そうして竿をあげたら、細鱗魚あゆがかかっていた。そのとき、皇后は、

「希見めずらしいものである(希見、これを梅豆邏志めづらしという)」「と仰せられた。

そこで、時の人は、そのところを名付けて、梅豆邏国めづらのくにといった。

いま、松浦というのは、訛ったものである。そのため、「その国の女性は、四月の下旬になるたびに、釣針を河の中に投げて、年魚あゆを捕ることが、いまでも絶えていない。ただし男性が釣っても、魚を捕ることはできない。」とある。このような神功皇后伝説の背景については「神道辞典」には四世紀後半の日本の朝鮮半島経営があると思われるとの記述がある。

・万葉集にはこの伝説を折りこんだ次の歌が詠まれている。

すいりんせき

「2 垂輪石伝説」

〜玉島里で鮎を釣る神功皇后伝説〜

たらしひめ

みこと

なつ

みた

足姫神の命の 魚釣らすと 御立

たれみ

たしせりし 石を誰見き

巻五―869 作者 山上憶良

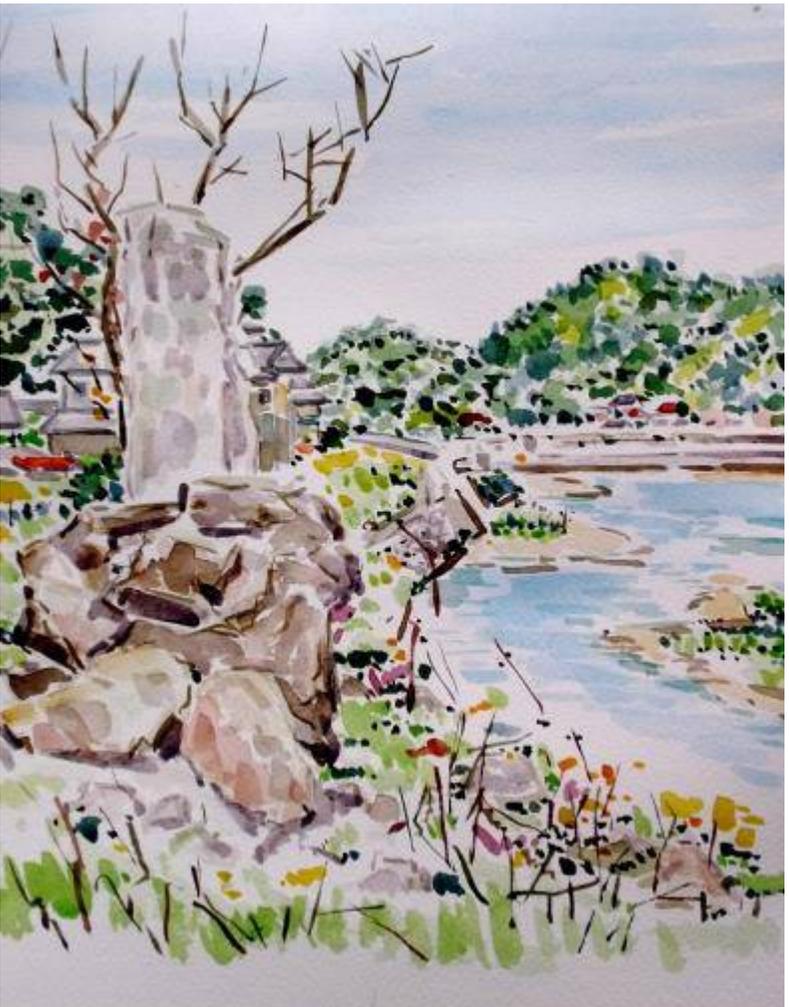
(解説) 神功皇后が魚をお釣りになるためにお立ちになったという石を誰が見たのであろうか。私は見る事ができなかったのに、うらやましいことだ。

福田良輔著「九州の万葉」には、この歌の作者・山上憶良は大宰府にあつて松浦玉島の里の神功皇后鮎釣りの石をうらやむ心をのべている。この作

品の背後には、松浦の伝説と風光が横たわっておりそれを憶れる山上憶良の姿がある。と述べている。

(写生地2) 「垂輪石」

○神功皇后が釣り糸を垂れて立ったと伝えられる石は「垂輪石」・「御立石」・「皇后石」・「紫台石」などと呼ばれ。足姫神ゆかりの石として唐津市浜玉町の「玉島神社・神功皇后宮」前を流れる玉島川のほとりにあったが、道路拡張工事のため50m程上流の玉島の小河(浜玉町南山の小川)のほとりに整備された「万葉垂輪石公園」内に置かれている。



(参考) なお、「垂輪」とは釣糸を水に垂れて魚を釣ること。

・また、浜玉町玉島の玉島川を見下ろす高台の上に「玉島神社」がある。

参道の石段を登り神社の境内に入れば西側の一隅に篠竹の群れがあり、

「皇后が鮎を釣った時に、釣竿として使われた竹を挿して根付いた竹群」

と伝えられる一群の竹藪が今も玉島神社境内崖地に残っている。

(写生地3) 玉島神社境内と拝殿西横に残る神功皇后鮎釣竿ゆかりの竹藪を描く。

(杏花)



(参考文献)・「万葉集・日本古典文学大系」・「日本書紀・日本の名著1」・「七山村史」
「九州の万葉」他

